

# 神奈川県発掘調査成果発表会 2018

## ◆ 日 時

平成30年7月28日(土) 13:30 ~ 16:30 (開場 13:00 ~ )

## ◆ 口頭発表

13:35 ~ 14:05	「船久保遺跡 第4次調査」(横須賀市) 石川 真紀(株式会社 玉川文化財研究所)	——	1
14:05 ~ 14:35	「庚申下遺跡」(座間市) 渡辺 務(株式会社 アーク・フィールドワークシステム)	——	3
14:35 ~ 14:40	休憩(5分)		
14:40 ~ 15:10	「諏訪前A遺跡 第14・15地点」(平塚市) 吉岡 秀範(株式会社 アーク・フィールドワークシステム)	——	5
15:10 ~ 15:40	「西富岡・中島遺跡」(伊勢原市) 中村 哲也(株式会社 玉川文化財研究所)	——	7
15:40 ~ 16:10	「三ノ宮・上竹ノ内遺跡 第2次調査」(伊勢原市) 高橋 直樹(大成エンジニアリング株式会社)	——	9
16:10 ~ 16:25	質疑応答		

## ◆ 紙上発表

「上粕屋・石倉中遺跡 第4次調査」(伊勢原市) 中島 大輔(株式会社 パスコ)	——	11
「上粕屋・石倉下遺跡」(伊勢原市) 北平 朗久(株式会社 玉川文化財研究所)	——	13
「西富岡・中島2遺跡」(伊勢原市) 土 任隆(国際文化財株式会社)	——	15
「西富岡・中島2遺跡 第2次調査」(伊勢原市) 青木 雄大(大成エンジニアリング株式会社)	——	17

会 場：かながわ県民センター2階ホール

主 催：神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部 文化遺産課  
中村町駐在事務所(神奈川県埋蔵文化財センター)

旧石器時代の石斧と陥し穴状土坑を発見

ふなくぼいせき  
船久保遺跡 第4次調査

**所在地** 横須賀市林5丁目1646-2他  
**調査期間** 平成28年12月5日～平成29年6月29日  
**調査面積** 1,894.9m<sup>2</sup>  
**調査組織** 株式会社玉川文化財研究所  
**担当者** 小林晴生・石川真紀  
**調査概要** 船久保遺跡は横須賀市南西部、京浜急行電鉄三崎口駅の北約3.7kmに位置しています。遺跡は小田和湾の東側、標高30～40mの起伏に富んだ丘陵上に立地し、現海岸線からは1kmほど内陸に位置しています。

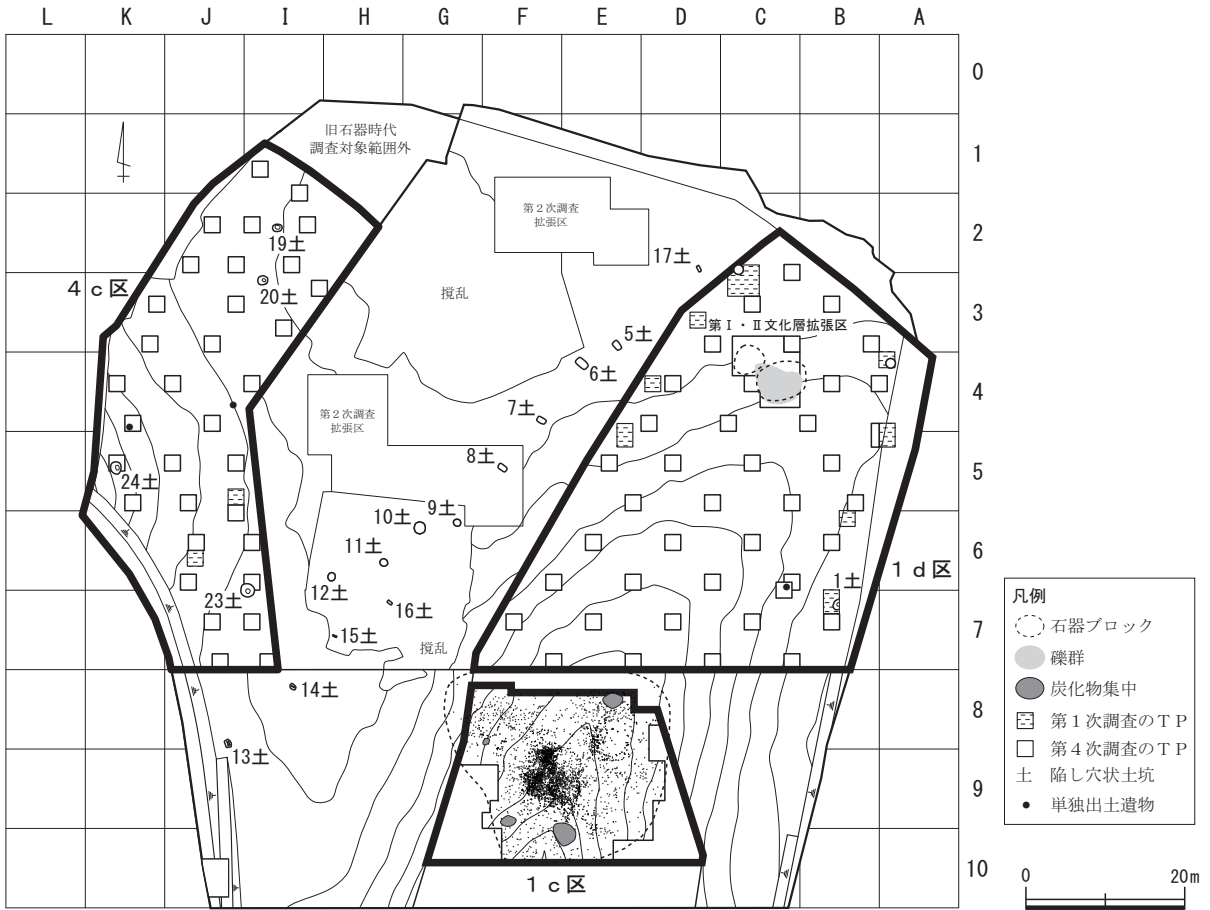


第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

船久保遺跡では、県道26号（横須賀三崎）三浦縦貫道路Ⅱ期工事に伴い、平成25年以降、継続的に調査を実施しています。これまでに実施した旧石器時代の調査では、相模野B1～L5層の各層から石器が数多く出土し、5時期の文化層を確認しています。また始良Tn火山灰降灰（約29,000年前）以前の陥し穴状土坑が、谷戸の縁辺部に沿うように14カ所で発見され、第3次調査では底面が長方形をした陥し穴状土坑を2基調査しました。

今回報告する第4次調査では、複数の陥し穴状土坑が発見された丘陵頂部付近を除く3地区（1c区・1d区・4c区）が調査対象になりました（第2図）。谷戸の斜面上方にあたる1d区では、相模野B1層で石器ブロック1カ所と礫群1基、相模野B2層で石器ブロック1カ所が発見され、定形石器としてはナイフ形石器が出土しています。一方、谷戸の斜面下方にあたる1c区では、相模野B4～L5層から3,000点を超える大量の石器が出土し、谷戸底部のほぼ全域に分布する径30mに及ぶ大規模な石器ブロックが発見されました。石器ブロック中央部には密集度の高い部分が約8mの範囲に認められます。出土した石器の多くは風化した流紋岩質凝灰岩の剥片類ですが、定形石器では台形様石器、砥石・台石、敲石、三浦半島で初となる局部磨製石斧や打製石斧が出土しています。また石器ブロックの周縁には4カ所の炭化物集中がみられ、自然科学分析で約35,000年前の広葉樹の一種であるカバノキ科アサダ属、カツラ科カツラ属、ブナ科コナラ属であったことが分かりました。丘陵西側の4c区では、相模野B3L層～B4U層で陥し穴状土坑を新たに4基発見しました。平面形は1.5m程の円形および楕円形、深さは120～155cmです。いずれの遺構も始良Tn火山灰降灰以前に位置づけられますが、第3次で調査した長方形の陥し穴状土坑とは遺構の確認面や覆土の堆積状況の違いから、長方形の陥し穴状土坑が新しく、円形の陥し穴状土坑が古いことが明らかになりました。

**まとめ** 谷戸底部で大規模な石器ブロックが検出され、三浦半島で初めて局部磨製石斧や打製石斧が出土しました。また全国的にも発見例の少ない始良Tn火山灰降灰以前の陥し穴状土坑が発見されました。旧石器時代の陥し穴状土坑は、三浦半島や静岡県のア鷹山麓、南九州など太平洋側の一部の地域に限られており、当時の生活を考える上で貴重な発見と言えるでしょう。（石川真紀）



第2図 旧石器時代遺構分布図 [S=1/1,000]



1 d区 相模野B1~B2層の石器ブロック・礫群 (南から)



1 c区 局部磨製石斧、敲石出土状況 (東から)



1 c区 相模野B4L層の石器ブロック (北から)



4 c区 PRE23号陥し穴状土坑 (北から)

縄文時代早期の竪穴建物跡を検出

## 庚申下遺跡

**所在地** 座間市入谷三丁目地内  
**調査期間** 平成29年9月5日～平成30年1月19日  
**調査面積** 364.5 m<sup>2</sup>  
**調査組織** (株)アーク・フィールドワークシステム  
**担当者** 渡辺 務・高杉博章

**調査概要** 調査は、県道42号(藤沢座間厚木)の道路災害防除事業に伴う事前の記録保存調査として実施しました。庚申下遺跡の本格調査は今回初めて実施され、近世以降、縄文時代の各種遺構が見つかり、縄文時代の土器や石器の出土がありました。調査対象地は、調査以前は包蔵地の範囲外でしたが、県文化遺産課による試掘調査の結果、遺構や遺物の出土があったことから包蔵地の範囲が変更・拡大され県道の南側だけではなく北側も座間市No.38遺跡に含まれることになりました。

**近世以降** 溝状遺構3条を検出しました。C-3グリッドを囲むようにほぼ直交して掘られ、覆土には宝永火山灰が多く含まれていました。遺物の出土はありませんでしたが覆土に混じっていた宝永火山灰から遺構の機能が停止したのは18世紀以降の時期が想定されます。

**縄文時代** 表土の下には縄文時代早期から中期後半にかけての遺物が含まれる黒褐色や暗茶褐色の粘質土中に、厚さ20～30cm程の遺物包含層が形成されており、計900点余の遺物が出土しました。早期から中期にかけての遺物が出土しましたが、その主体となったのは早期後葉の野島式土器やこれに伴うと考えられる条痕文土器や石器でした。遺物包含層の下からは早期後葉の遺物が伴う竪穴建物跡2棟や、陥し穴1基含む19基の土坑、炉穴5基、集石1基を検出しました。竪穴建物跡は丘陵頂部平坦面から斜面に変化する傾斜変換点付近に立地し、柱穴と考えられるピットは確認できましたが炉は見つかりませんでした。一方、炉穴や集石は平坦面に立地していました。また炉穴は竪穴建物跡を取り囲むように位置しているように思われました。

**まとめ** 今回の調査で検出された遺構や出土した遺物の主体となる時期は、縄文時代早期後葉頃と考えられます。注目される点は該期の竪穴建物跡を検出したことがあげられます。県内では横浜市や川崎市の多摩丘陵上の遺跡や下末吉台地の遺跡から少数見つかっていましたが、県央部から西部ではこれまでほとんど見つかっていないようで、貴重な調査例となるものです。いずれも完全な形での検出ではありませんでしたが、平面形は不整な楕円形で、柱穴と推定されるピットはありましたがピットの配置に規則性は認められませんでした。建物内には炉が伴わないと考えられます。竪穴建物跡の周囲には炉穴が複数認められましたが、集石も含めて3種類の遺構は同時期に互いに関連性を持って機能していた可能性は十分考えられるのではないのでしょうか。(渡辺 務)



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)





中世の整地層によって消えた国府関連遺跡

すわまえ

## 諏訪前A遺跡 第14・15地点

**所在地** 平塚市東真土一丁目476・477番

**調査期間** 平成29年5月15日～7月3日(第14地点)

平成30年1月9日～3月19日(第15地点)

**調査面積** 188㎡(第14地点)

489㎡(第15地点)

**担当者** 吉岡秀範・柳川清彦

**調査概要** 都市計画道路3・3・6号湘南新道街路整備工事に伴う調査で、遺跡は平塚市の市街地に広がる砂州・砂丘の砂丘列第2B列付近に所在します。確認した遺構は、古墳時代後期～平安時代、中世・近世、近世以降のもので、出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器、土・石・銅製品等でした。



第1図 遺跡位置図(1/50,000)

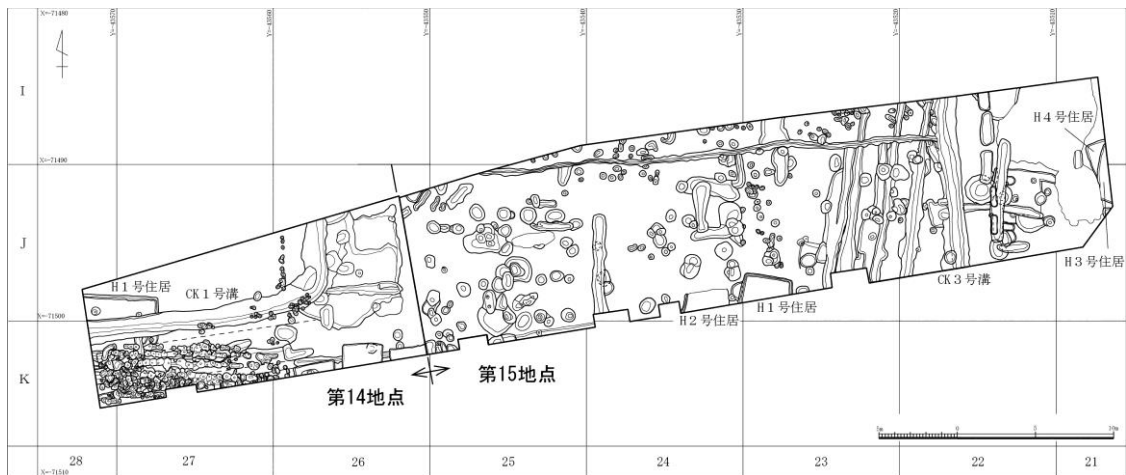
**近世以降** 土坑6基(第15地点)、畝状遺構1か所(第14地点)を確認しました。土坑は、調査区東側に位置し6基のうち5基の平面形は長方形で、南北に直線的に並んで認められました。畝状遺構(第14地点)はピットが重なった溝状の掘り込みで、覆土には宝永火山灰が含まれていることから降灰以降のものと考えられます。

**中世・近世** 竪穴状遺構3基、土坑43基、溝状遺構32条、井戸1本、畝状遺構・耕作跡各1か所、ピット21個を確認しました。溝状遺構32条のうちCK1号溝状遺構(第14地点)とCK3号溝状遺構(第15地点)の2条は、砂丘から凹地へと地形が変化する付近で認められたことから土地を区画する溝と考えられます。この2条の溝状遺構に挟まれた部分では、褐色土・黄褐色土等が混じり遺物を包含する層(整地層)が認められました。また、土坑・溝状遺構等のほか、個別の遺構とはしなかった凹凸が多く認められることから、その範囲を耕作跡(CK1号耕作跡)としました。井戸(CK1号井戸)は第15地点の東側で確認され、径約2m、深さは2.2mで、底面付近の一部の壁面が錆によって赤味を帯びていました。遺物は土器・陶器・銭貨が出土しました。

**古墳時代後期～平安時代** 竪穴住居跡5軒、竪穴状遺構2基、土坑35基、溝状遺構5条、ピット3個を確認しました。第14地点では竪穴住居跡が1軒確認されたのみで、その他はすべて第15地点で確認されたものです。竪穴住居跡はすべて調査区の外に延びていて全体を調査することは出来ませんでした。これらは出土した土師器・須恵器等の遺物から古墳時代後期～平安時代頃と考えられます。竪穴状遺構2基のうち1基は竪穴住居跡と考えられますが、硬化した床面や、カマド等の火処が認められなかったことから竪穴状遺構と判断しました。土坑は、第15地点調査区の東側と西側

で認められ、西側の一部の土坑は掘り込みが明瞭なものも含まれますが、掘立柱建物跡の柱穴のような規則性は認められませんでした。遺物は、土師器・須恵器・ロクロ土師器（甲斐型土器・内黒土器）・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦・鞆の羽口・鉄滓・石製品等が出土し、古墳時代前期と考えられる土師器の器台や朱墨痕の見られる須恵器坏などが含まれていました。この多くは褐色土・黄褐色土混じりの包含層から出土したもので、小破片が大半を占めています。

**まとめ** 第14・15地点は東西に隣接した調査区で、その大半の範囲が東西方向に広がる砂丘列の砂丘上に所在し、第14地点の北西付近、第15地点の東側付近が砂丘から凹地へ向かう、地形が変化する部分に相当すると考えられ、本来であれば周辺の砂丘上の調査地点と同様に古墳時代後期頃～平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡等が営まれ、国府に関連する人々の生活の場であったと考えられます。しかし、中世・近世頃に土地利用に変化が生まれ、砂丘上の生活の痕跡を削り取って平坦な地形を造り出し、褐色土・黄褐色土等が混ざった土で大規模な整地を行い、耕作地として利用し、現在まで連綿と続いていたものと考えられます。（吉岡秀範）



第2図 諏訪前A遺跡第14・15地点調査区全体図



第14地点全景(西から)



第15地点全景(西から)

中世の杭や柵を伴う大溝を発見

にしとみおか なかじま  
西富岡・中島遺跡

**所在地** 伊勢原市西富岡字中島949-3外

**調査期間** 平成29年3月27日～9月19日

**調査面積** 1,875㎡

**調査組織** 株式会社玉川文化財研究所

**担当者** 中村哲也・中山 豊

**調査概要** 今回の調査は、県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う事前調査として実施しました。遺跡は伊勢原市中央部に位置し、地形には上粕屋扇状地北端と日向扇状地南端境界付近に形成された沖積低地に該当します。遺跡の西側には渋田川本流が、東側には渋田川支流の小河川がそれぞれ南流しています。遺跡の標高は調査地北西側で約52.3m、南東側で約51.2mを測ります。調査の結果、近世、中世、縄文時代に属する遺構と遺物を検出しました。また、古墳時代後期～奈良・平安時代、弥生時代後期～古墳時代前期に属する土器もわずかに出土しましたが、遺構は発見されませんでした。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

調査の結果、近世、中世、縄文時代に属する遺構と遺物を検出しました。また、古墳時代後期～奈良・平安時代、弥生時代後期～古墳時代前期に属する土器もわずかに出土しましたが、遺構は発見されませんでした。

**近世** 覆土に宝永火山灰を含むピット1基を検出しました。遺物は国産陶磁器、銅製品、鉄製品、鉛製品、銭貨などが出土しました。時期的には17～18世紀代の資料が主体的です。

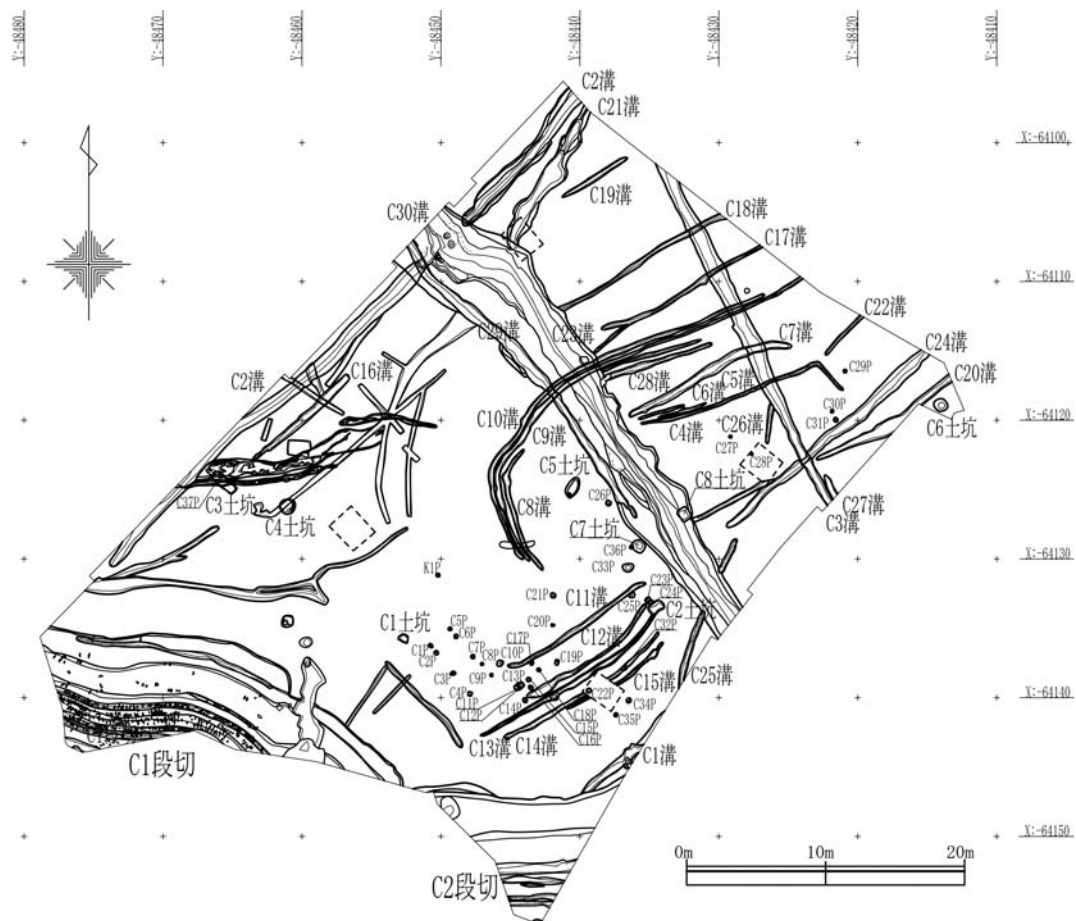
**中世** 溝状遺構30条、土坑8基、段切り状遺構2カ所、掘立柱建物址1棟、ピット29基を検出しました。遺構の分布状態は、調査区北側から中央南側にかけての平坦面には、北西-南東方向の大規模な溝（C30号溝）を中心に中小溝状遺構群、掘立柱建物址、土坑群などの遺構群が展開し、調査区南端部の渋田川に下る傾斜面には大規模な切土造成痕跡と推定される段切り状遺構が形成されています。さらに、C30号溝内では杭列4条、柵状遺構1カ所などの付帯施設と、遺物集中1カ所、礫集中2カ所を検出しました。C30号溝の性格については、護岸施設（杭列）と堰状施設（柵状遺構）を有する大溝と考えられ、利水ないしは排水を主目的とした遺構と推定されます。遺物は舶載磁器、国産陶器、瓦質土器、土器、石製品、木製品、銭貨、獣骨など多種多様で、特に13～14世紀代に属する資料の比率が卓越します。

**縄文時代** 中期後葉～後期初頭に属する可能性がある集石土坑3基と集石址2基を検出しました。集石土坑は土坑内に礫が充填されるタイプと土坑上層に礫が集中するタイプ、集石址は平面的に礫が集中するタイプと散在するタイプがみられます。各集石を構成する礫は大半が被熱破碎礫で、主要石材は凝灰岩・凝灰質礫岩・安山岩の3種です。遺物は土器、土製円盤、石器などがみられ、草創期前半に属する黒曜石製の木葉形尖頭器1点が出土しています。

**まとめ** 今回の調査では、近世、中世、縄文時代に属する遺構群が発見されました。特に中世の調査成果は、渋田川左岸域沖積低地における土地利用状況の一端を示す貴重な資料と考えられます。

(中村哲也)





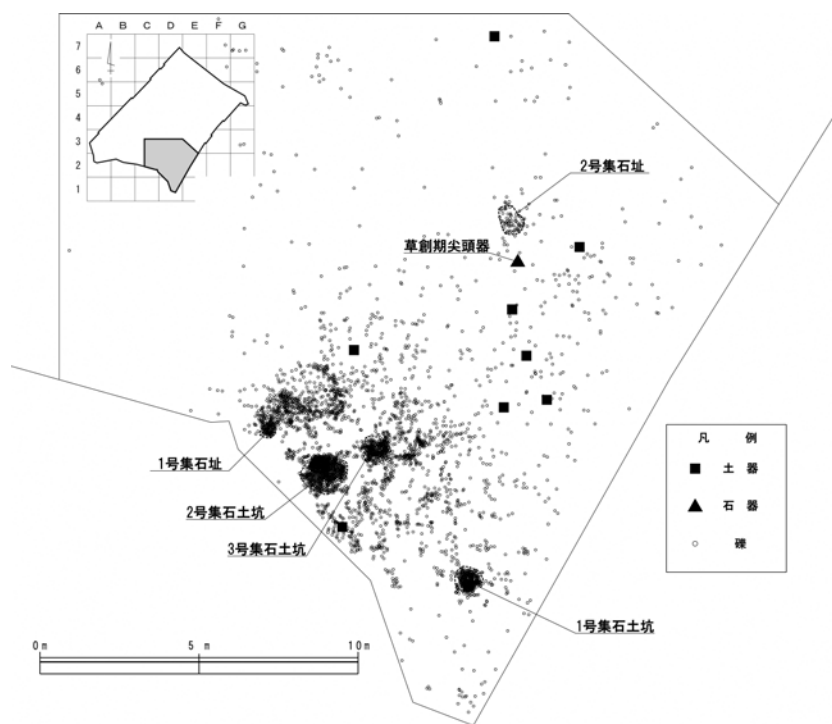
第2図 中世～近世遺構配置図 (1/600)



写真1 中世の大溝 (C30号溝)



写真2 C30号溝内柵状遺構の杭列



第3図 縄文時代遺構配置図 (1/300)

中世・浄業寺と関連する石垣と段切り遺構

## 三ノ宮・上竹ノ内遺跡 第2次調査

**所在地** 伊勢原市三ノ宮字上竹ノ内地内  
**調査期間** 平成 29 年 3 月 3 日～11 月 8 日  
**調査面積** 437 m<sup>2</sup>  
**調査組織** 大成エンジニアリング株式会社  
**担当者** 高橋直樹・大川康裕  
**調査概要** 本遺跡は小田急小田原線伊勢原駅の北西約 3 kmに位置します。地勢的には丹沢山麓末端から流れ出る鈴川右岸の河岸段丘下に位置し、中世～近世に所在した浄業寺・泉龍寺跡と認識されています。今回の調査は、県道 611 号（大山板戸）道路改良工事に伴う事前調査として実施されました。これまでに近接する浄業寺跡（平成 24 年度）、浄業寺跡第 2 次調査、三ノ宮・上竹ノ内遺跡（平成 26・27 年度）に引き続き、3 回目の調査となります。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

**近世** 計 2 面の地業面が確認され、畝状遺構群や耕作痕群が見つかっています。幕末期に描かれた「三ノ宮村浄業寺・泉龍寺境内山林図」（『伊勢原市史 通史編 近世』）では、調査区周辺が「畑」と記載があることから、畑地の存在を裏付けることができました。遺物は、江戸時代の陶磁器類などが出土しています。

**中世** 計 5 面の地業面が確認され、掘立柱建物跡、墓壙、石垣、段切り遺構などが見つかっています。掘立柱建物跡は段丘下の平坦地に構築されており、中世浄業寺に関する建物跡を窺わせます。掘立柱建物跡の近くでは墓壙が確認され、屈葬された遺体の人骨および副葬品（六道銭など）が出土しています。遺体は頭部を北に向けて埋葬された遺体のほか、西に向けて埋葬された遺体に区分されます。中世浄業寺は浄土宗であったことから、西方浄土を意識して埋葬されたのではないかと考えられます。また、平成 26・27 年度調査で確認された石垣が、本調査区内に広がっていました。石垣は 2 基確認され、調査区の出づら沿いに伸びる石垣と、新たに東側に伸びている石垣が確認されています。石垣の積み方は「野面積み」で、後世の崖崩れなどの影響によって原形を留めていない箇所もみられました。特筆すべきは、大規模な地業跡と思われる段切り遺構（14～15 世紀頃）が調査区全体で確認され、旧地形に沿って南北に展開し、南側の調査区外へと延伸することが判明しました。遺物は、舶載磁器、陶器、土器、渡来銭貨、石製品などが出土しています。

**まとめ** 本調査では、近世泉龍寺期の畑地跡と、中世浄業寺に関連する遺構群が重層的に発見されました。中世浄業寺での古段階の土地整備状況の痕跡は、本遺跡を考える上で貴重な情報であると言えるでしょう。（高橋直樹）





第1図 中世第1面全体図



写真1 C2号掘立柱建物跡



写真2 C2号墓壙人骨出土状況



第2図 中世第4面全体図



写真3 C2・C3号石垣検出状況



写真4 C2号段切り遺構検出状況

かみかすや いしくらなか  
上粕屋・石倉中遺跡 第4次調査

**所在地** 伊勢原市上粕屋地内

**調査期間** 平成29年3月13日～5月31日

**調査面積** 総面積 633.64 m<sup>2</sup>

**調査組織** 株式会社パスコ

**担当者** 中島大輔・相川 薫

**調査概要** 本遺跡は丹沢山塊東端霊峰大山の東側にあり、鈴川と渋田川支流に開析された上粕屋扇状地の頂部付近に位置しています。調査次数は今回で第4次となり、縄文時代、奈良・平安時代、近世の遺構と遺物が出土しました。

**近世** 【近世溝状遺構1条、道路状遺構1条】溝状遺構と道路状遺構ともに第1・3次調査で検出されていた続きの部分を調査しました。溝状遺構

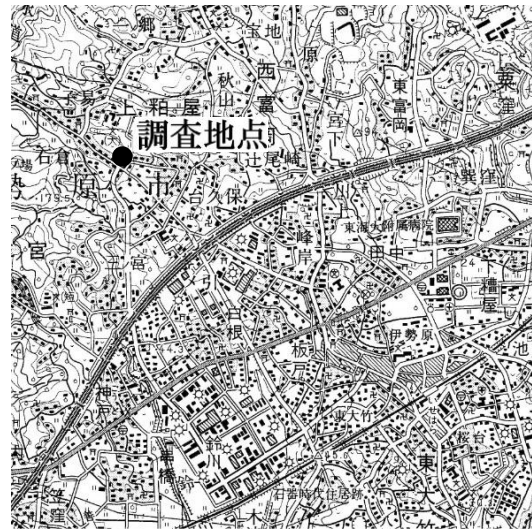
は第1・4次で調査された成果を踏まえると、規模が全長45.5m、上面幅6.0～7.4m、底面幅3.1～3.4m、深さ1.5m、断面形が逆台形である大形の掘り割り型道路であることが分かりました。この大形の道路は経路の検討から大山道田村通りに比定されていて、大山参詣の際には当時の人々が往来していたことが想起されます。道路状遺構は第1・3・4次調査の成果から現代も残る区割りに沿って、中世から断続的に作られていたことが分かっています。

遺物は瀬戸・美濃系、肥前系の陶磁器などが出土していて、磁器では青白磁釉が施され、底部が厚みをもつ初期伊万里とみられる中碗が見つかっています。

**奈良・平安** 【奈良・平安土坑23基、ピット5基】平面形が円形となる土坑が検出されました。周辺の遺跡でも同じような円形土坑が見つかっている、これまでの研究から畑作に関する貯水や貯蔵を目的とした施設と考えられています。

**縄文** 【縄文陥し穴1基】陥し穴1基が検出されたほか、包含層から縄文土器128点、石器33点が出土しています。陥し穴はソフトローム層(L1S)上面で確認されました。平面形は楕円形で、底面に1基のピットをもつ1穴形と呼ばれる形態です。縄文時代早・前期に多い形態です。包含層から出土した縄文土器は、早期の夏島式、稻荷台式、稻荷原式、花輪台式、中期の五領ヶ台I式、勝坂式、加曾利E3式、後期の堀之内1・2式となります。出土した128点中、83点が早期の土器で、周辺の遺跡と比較してみると、本遺跡の第1・3次調査で出土するほかは出土例が少ないことが分かっています。

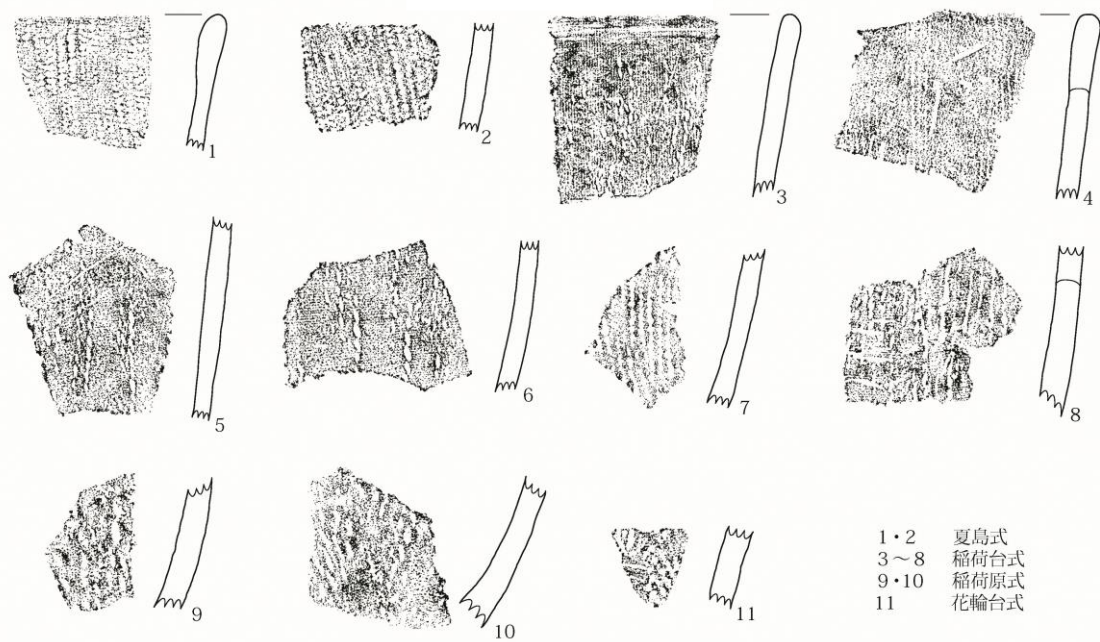
**まとめ** 大山道に関しては周辺の調査成果と併せることによって、その経路が徐々に分かりつつあります。今後は考古資料だけではなく絵図や文書などと検討することによって、当時の大山道沿いに賑わった宿場町や人々の生活がより具体的に分かっていくことと思います。(中島大輔)



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



第2図 大山道経路図



第3図 縄文時代出土遺物



大山道と関連する近世・中世遺構を検出

かみかすや いしくらしも

## 上粕屋・石倉下遺跡

**所在地** 伊勢原市上粕屋地内

**調査期間** 平成29年3月14日～12月13日

**調査面積** 612m<sup>2</sup> (A区188m<sup>2</sup>、B区424m<sup>2</sup>)

**調査組織** 株式会社玉川文化財研究所

**担当者** 北平朗久・秋山重美

**調査概要** 今回の調査は、県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う事前調査として実施しました。遺跡は伊勢原市中央部の上粕屋扇状地に立地し、近世、中世、縄文時代の計3面の遺構面を確認しました。

**近世** 竪穴状遺構4基、溝状遺構2条、畝状遺構13条、段切り状遺構1カ所、土坑24基、集石土坑1基、硬化面1カ所、ピット38基を検出しました。

1号竪穴状遺構は壁面に沿って川原石が並べられ、方形竪穴建物と考えられます。畝状遺構の多くは並行関係にあり、耕作に関連する畝に伴う溝と推定されます。土坑の一部には宝永火山灰が充填されたものがあり、宝永火山灰の廃棄施設と推定されます。出土遺物は18世紀代の陶器、磁器、銭貨などが中心に出土しました。

**中世** 掘立柱建物址3棟、柱穴列3列、溝状遺構2条、土坑25基、ピット256基を検出しました。出土遺物は皆無に等しく、出土遺物からの詳細な時期は不明ですが、掘立柱建物址や柱穴列の柱掘り方は総じて小さく、奈良・平安時代のものより後出的であることから、おおむね中世の遺構と推定しました。掘立柱建物址3棟はA区から検出し、壺掘り形態の側柱建物です。北西-南東に主軸をもつ桁行3間、梁行2間もしくは1間と推定される建物が2棟（C1・2号）、北東-南西に主軸をもち、桁行2間、梁行2間の建物が1棟（C3号）検出されました。柱穴列はA区で2列（C1・2号）、B区で1列（C3号）を検出しました。A区の2列はL字形、B区の1列は直線的に配置されていました。これらも掘立柱建物址を構成する可能性があります。攪乱や調査範囲などの影響で詳細は不明です。土坑はA区に15基、B区に10基が分布していました。平面形は長方形、略円形、楕円形などで、規模は長軸で1m前後ものが中心です。

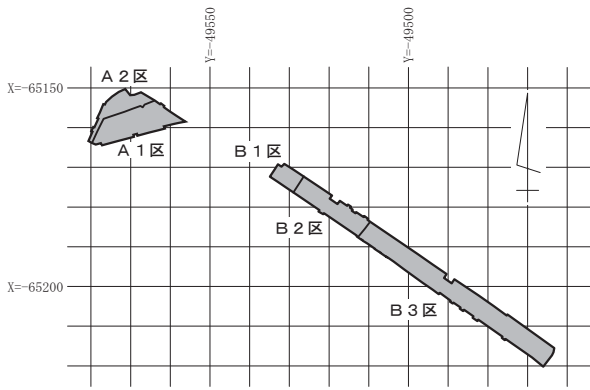
**縄文時代** B区から陥し穴1基を検出しました。平面形は隅丸長方形、規模は長軸187cm、短軸92cm、深さ118cmを測り、底面に小ピット6基を有します。出土遺物が無く、詳細な時期は不明ですが、おおむね早期～前期と考えられます。遺物は遺構外から断続的ではありますが、早期初頭～後期前葉までの土器・石器が出土しました。

**まとめ** 今回の調査では、近世、中世、縄文時代の遺構が検出されました。特に近世、中世の遺構は、隣接する上粕屋・石倉中遺跡で検出された大山道と主軸を揃えるものや直交するものが多くあり、居住域や生産域の一部と推定されます。また、縄文時代の陥し穴については、本遺跡周辺の早期～前期における土地利用の一端を示していると考えられます。（北平朗久）

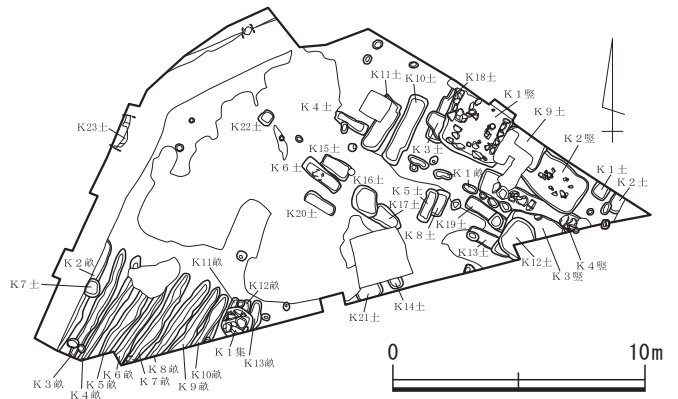


第1図 遺跡位置図 (1/50,000)





第1図 調査地点配置図 (S=1/2,000)



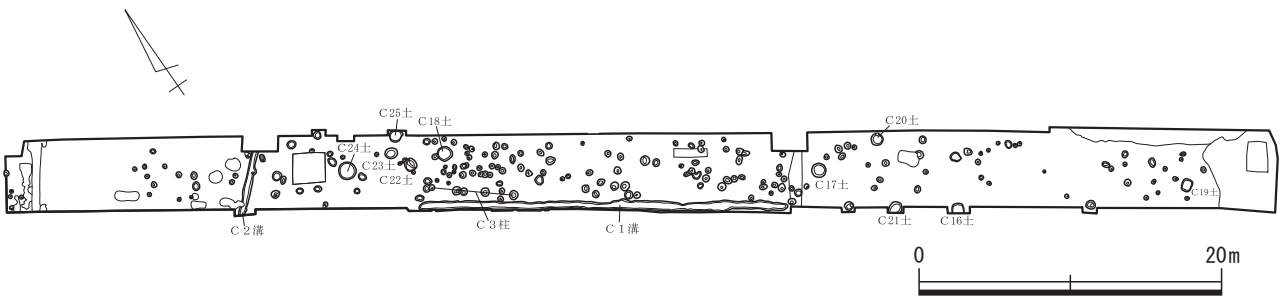
第2図 A区近世遺構分布図 (S=1/300)



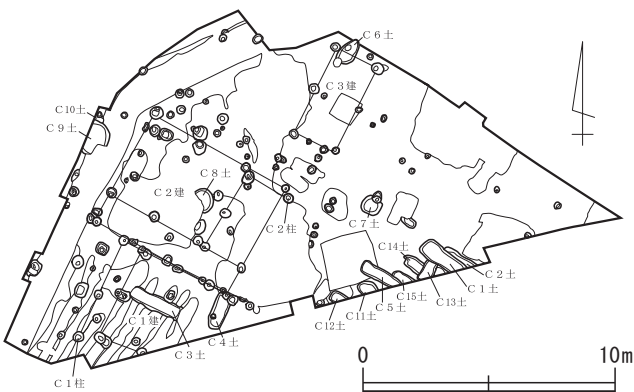
写真1 K1号竖穴状遺構全景 (南西から)



写真2 K2~13号畝状遺構全景 (北東から)



第3図 B区中世遺構分布図 (S=1/500)



第4図 A区中世遺構分布図 (S=1/300)



写真3 J1号陥し穴全景 (東から)

中世の地下式坑や掘立柱建物址を検出

にしとみおか なかじま

## 西富岡・中島 2 遺跡

**所在地** 伊勢原市西富岡 863

**調査期間** 平成29年9月19日～平成30年3月16日

**調査面積** 2,686 m<sup>2</sup>

**担当者** 土 任隆・池内 啓

**調査概要** 本調査は、平塚土木事務所による県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う事前調査として実施されました。本遺跡は小田急小田原線の伊勢原駅から北約3.5kmに位置し、渋田川とその支流に挟まれた狭小な丘陵上に立地しています。東側は川に削られた急峻な崖で、西側及び北側も崖となっており、崖下には平坦面が広がっています。今回の調査範囲は丘陵上及び西側崖の一部、北側崖下の平坦面で、近世、中世、縄文時代の各時期の遺構・遺物と旧石器時代の石核が1点出土しました。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

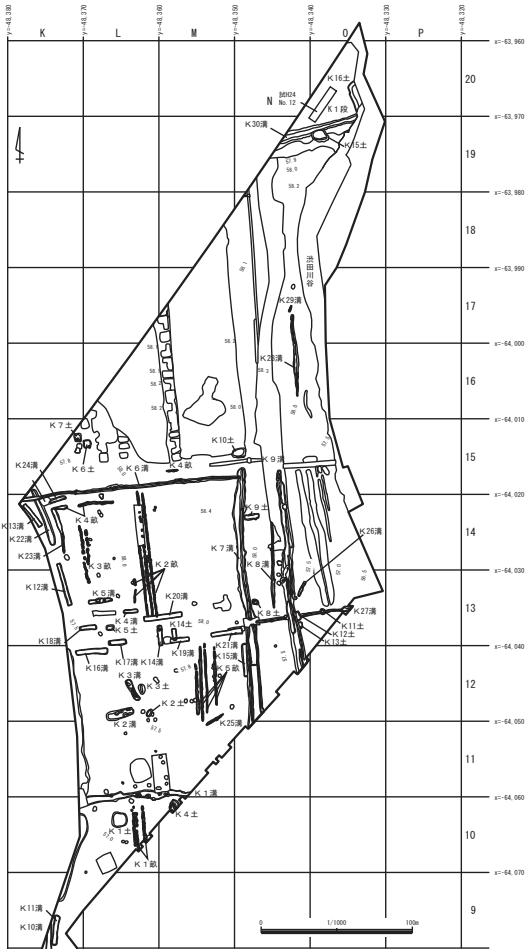
**近世以降** 溝状遺構30条、土坑16基、畝溝状遺構5箇所、段切状遺構1箇所、ピット50基を検出しました。遺構は丘陵上の平坦面中央から南西側に偏在しており、溝状遺構と畝間溝がおおむね東西及び南北方向に軸をとって展開しています。また調査区北端で段切状遺構が確認されました。遺物は肥前産磁器や瀬戸・美濃産陶器などが出土しています。

**中世** 掘立柱建物址5棟、柱穴列1条、竪穴建物址1棟、竪穴状遺構1基、地下式坑3基、溝状遺構10条、土坑32基、段切状遺構1箇所、ピット157基を検出しました。掘立柱建物址をはじめとする建物址は調査区西寄りに、溝状遺構は東西及び南北方向に軸をとり展開し、南側で土坑が集中して検出されたほか、地下式坑が溝状遺構を切って検出されました。遺物は常滑産の甕や、古瀬戸の瓶子・縁釉小皿、瀬戸・美濃産播鉢、かわらけなど、概ね14世紀～16世紀の遺物が出土しています。また、調査区の西側には段切状遺構が南北に延び、西側で並行して行われた第2次調査で多数の遺構が検出されています。

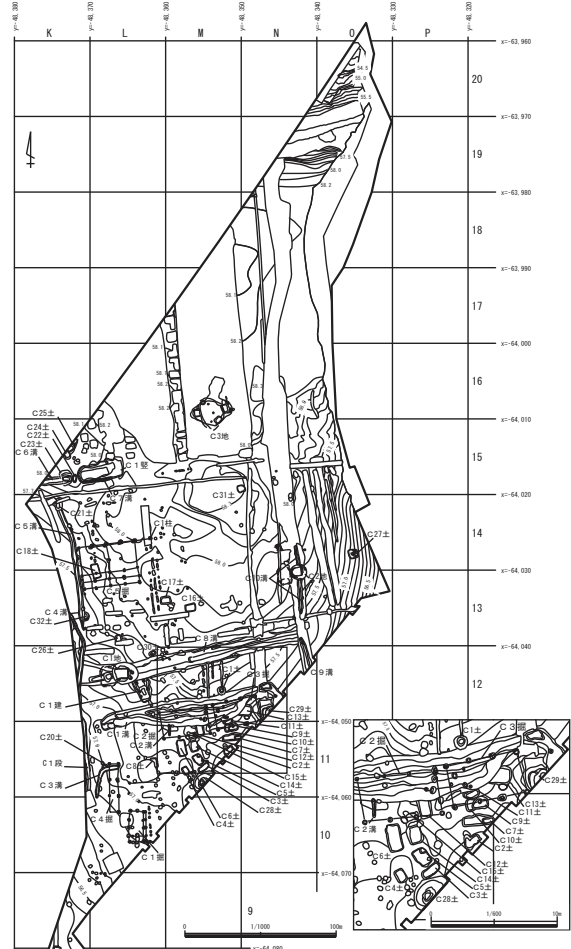
**縄文時代** 陥し穴3基、土坑19基、ピット33基を検出しました。当該期の遺構は、近世以降や中世の遺構と異なり調査区全体に散在して検出されました。遺物は土器が、縄文時代早期・中期・後期のものが、石器は有舌尖頭器、磨製石斧、打製石斧、磨石、石皿などが出土しています。

**旧石器時代** 縄文時代の土坑覆土中からですが旧石器時代の細石刃核が1点だけ出土しています。

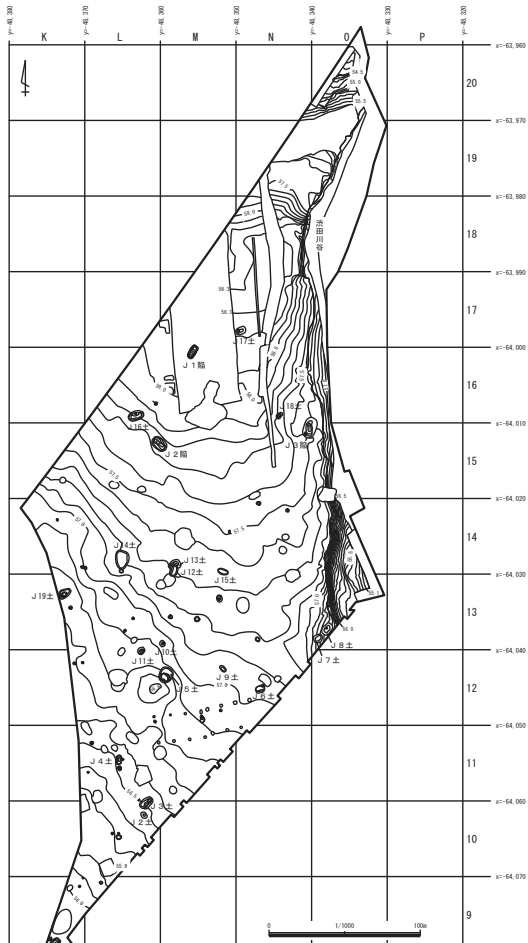
**まとめ** 今回の調査で、縄文時代、中世、近世にかけて当地で人々が活動していることがわかりました。特に中世では、建物址をはじめ多数の遺構や遺物が確認されており、土地を改変して建物を建てる等の人々の活発な活動が看取されます。（土 任隆）



第2図 近世遺構配置図 (1/1000)



第3図 中世遺構配置図 (1/1000)



第4図 縄文時代遺構配置図 (1/1000)



写真1 中世面全景 (南西から)



## 西富岡・中島2遺跡 第2次調査

**所在地** 伊勢原市西富岡字中島 906-3 他

**調査期間** 平成29年9月29日～平成30年4月9日

**調査面積** 1,445 m<sup>2</sup>

**調査組織** 大成エンジニアリング株式会社

**担当者** 青木雄大・吉田好孝

**調査概要** 今回の調査は西富岡・中島2遺跡の第2次調査になります。本遺跡は上粕屋扇状地北端と日向扇状地南端の境界付近に位置し、調査地点は遺跡の南側を東流する渋田川本流と東側を南流するその支流の小河川によって形成された台地上に位置します。調査区は南西方向に向かって現状で比高差約1m前後の段差を有するひな壇状の平坦面に分かれます。調査の結果、近世後半以降、近世前半、中世、縄文時代の遺構と遺物を発見しました。また、旧石器時代のナイフ形石器1点が出土しています。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

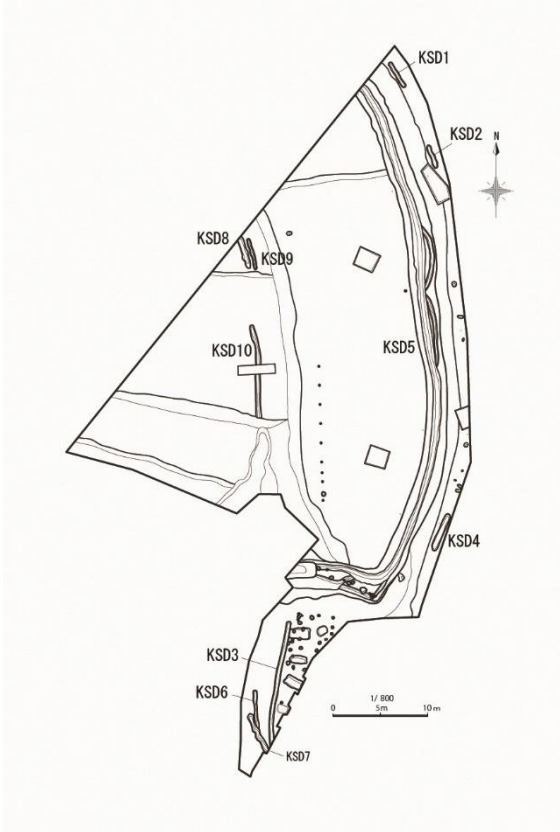
**近世後半以降** 溝状遺構 (SD) 10 条、土坑 4 基などを発見しました。溝状遺構の中には調査区を南北に縦断する幅 1.2～3.5m 程の大型のものや、遺構覆土に宝永火山灰を含んでいるものが見られます。遺物は肥前系磁器や瀬戸・美濃系陶器を中心とした近世陶磁器類などが出土しました。

**中世～近世前半** 竪穴状遺構 1 基、掘立柱建物址 (SB) 2 棟、柵列 1 条、溝状遺構 7 条などを発見しました。遺構は調査区下段面に分布しており、調査区外へも広がる可能性があります。

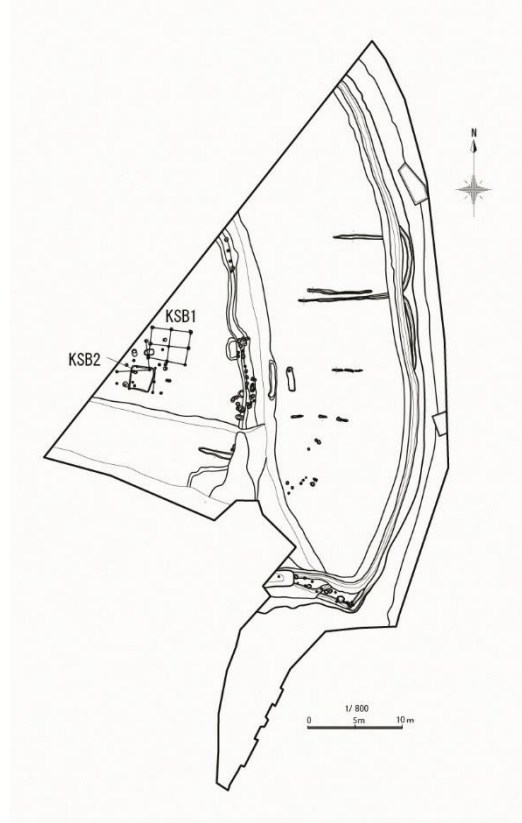
**中世** 竪穴状遺構 4 基、掘立柱建物址 15 棟、柵列 25 条、溝状遺構 9 条、畝状遺構群 1 箇所、段切り状遺構 1 箇所、井戸址 1 基、地下式坑 2 基、焼土址 1 基などを発見しました。遺構は調査区の全域に分布しており、特に上段面の中央付近では掘立柱建物址が密に発見されたことから居住域と考えられます。また、下段面は上段から南西方向に緩く傾斜しており、そこには畝状遺構群があることから生産域であった可能性が考えられます。遺物は舶載磁器 (龍泉窯系・同安窯系など)、国産陶器 (渥美、常滑、瀬戸・美濃)、北宋銭 (太平通宝など) などが出土しました。

**縄文時代** 集石土坑 1 基、土坑 9 基、上段面から南西方向へと急傾斜していく埋没谷を確認しました。遺物は中期勝坂式、後期堀之内式などの土器と磨石、敲石などの石器が出土しています。

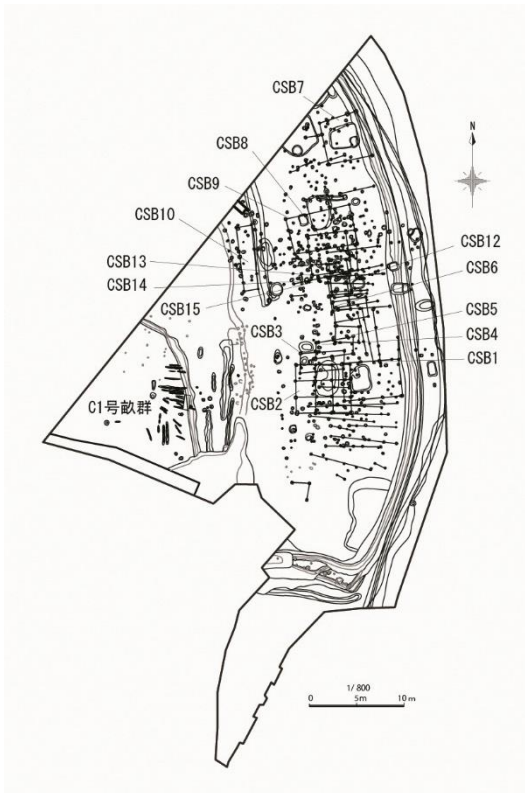
**まとめ** 今回の調査では中世の遺構と遺物が主体となりました。遺構は遺物の年代観から15世紀から16世紀に属すると考えられます。今後は西富岡・中島2遺跡やその周辺遺跡を含めた中世後半期の社会の様相に対する総合的な検討が必要になると推測されます。(青木雄大)



第2図 近世後半以降 遺構配置図(1/800)



第3図 中世～近世前半 遺構配置図(1/800)



第4図 中世 遺構配置図(1/800)

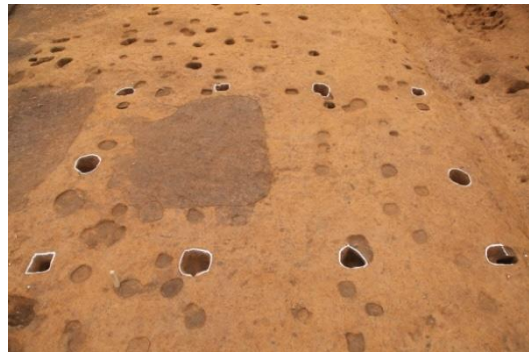
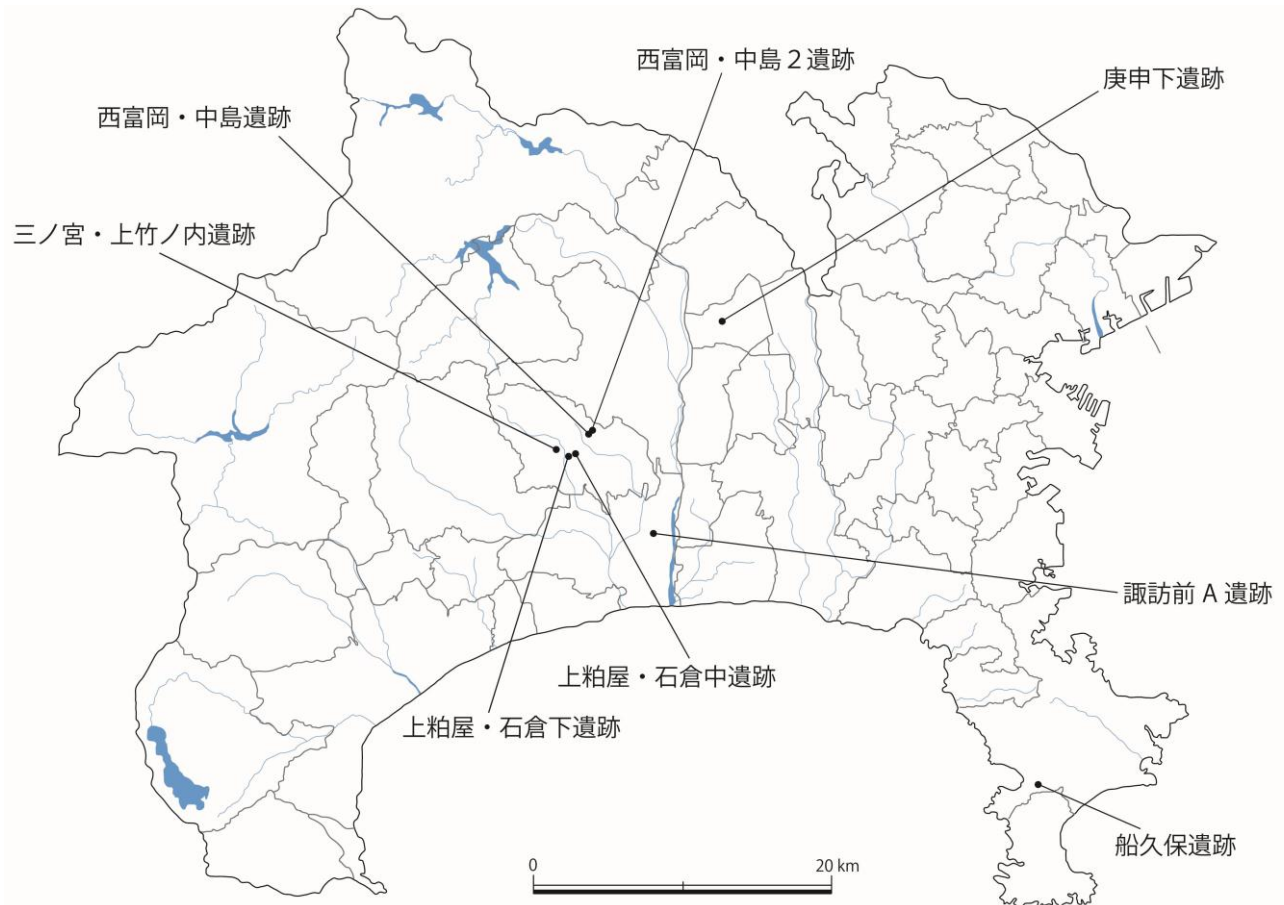


写真1 C1号掘立柱建物址(南から)



写真2 縄文時代 完掘全景(南西から)



今回発表の遺跡

神奈川県発掘調査成果発表会は、神奈川県が行う事業に伴って実施された発掘調査の最新の成果を一般の方々に公開し、埋蔵文化財への理解を深めていただくことを目的にしています。

---

---

平成 30 年度 第 3 回考古学講座  
神奈川県発掘調査成果発表会 2018

発行日 平成 30 (2018) 年 7 月 28 日  
編集・発行 神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部 文化遺産課  
中村町駐在事務所 (神奈川県埋蔵文化財センター)  
〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1  
TEL 045-252-8661 FAX 045-252-8663

---

---